

信濃町とクロスカントリースキーマの魅力を 知っているからこそできるコース整備

雪深い野山を歩き滑走するクロスカントリースキー。細長く軽い板でかかとが固定されていないため、軽快に丘陵や森林で動くことができます。そんなクロスカントリースキーが盛んに行われている信濃町。1964年のオーストリア・インスブルック五輪に出場した北村辰夫選手や1998年の長野五輪では日本クロスカントリースキー史上初の入賞（7位）に貢献するなど、冬季五輪に4大会連続出場した今井博幸選手、ソチ五輪に出場し2018年のピョンチャン五輪もめざすオリンピック陽選手など、オリンピックも輩出されています。

その信濃町にあるクロスカントリースキーコース「童話の森スノーウェーブ」。黒姫高原スキー場に隣接する黒姫童話館が休館となる冬季、建物前から黒姫山のすそ野に開設されるコースです。全日本スキー連盟公認の本格的なレイアウトで、スキー大会開催にも対応。この整備を町から任されているのが、長谷川久雄さんと横田（旧姓・長谷川）美久さん親子です。

長谷川さんは神奈川県出身。黒姫高原の自然と静けさ、四季がはっきりとしていて大好きなスキーもできる環境に惹かれ、ペンションを営むために1982年に移住しました。そして子どもたちが始めたのをきっかけに、長谷川さんもクロスカントリースキーに魅了されていきました。

そもそも、信濃町の小学校では授業にクロスカントリースキーが組み込まれているので、入学すると全員がクロスカントリースキーを習います。美久さんは小・中学校の9年間、数々の大会にも出場しました。

「練習した分だけ成果が出て、結果が伴うとうれしくなります。それでもまた頑張ろうと思えて続けてきましたね（美久さん）。」

坂を登るクロスカントリースキーは、ワックスの塗り方や道具のメンテナンスで格段に滑りに違いが生まれます。アルペンスキーにはない特有のおもしろさに長谷川さんは夢中になりました。

そんな長谷川さんがコースを作るようになったのは15年ほど

前。かつては黒姫高原スキー場の圧雪車が朝一回圧雪するのみでなかなかコースが作れなかったため、当時からコース管理を手伝っていた長谷川さんなどの有志が町に専用圧雪車の購入を働きかけ、実現したことから、建設機械の運転資格をもつ長谷川さんが本格的に携わるようになりまし。その結果、従来の5km周回コースに加え、1km・2km・3kmコースや特設コースなど、お客様のニーズに応じた整備が可能になったと言います。

「近郊にもコースはありますが、常設コースを謳うここではどんなに雪が多っても必ず滑ることができると、遠方からのお客様もいます（長谷川さん）。」

「ここは選手だけではなく、ゲレンデで滑ったあと、おもしろそうだと初めて利用される初心者の方も多くいます。なので誰でも安心して回れるよう、コースに安全ネットを張るなどの気遣いもしています（長谷川さん）。」

競技で重要なのは挨拶だと教わってきたので、お客様とのコミュニケーションは大切にしています（美久さん）。

だからこそ、長谷川さんたちが抱くのは、多くの人に雪遊びに興味をもってほしい！という思い。

「信濃町はやはり雪の町。クロスカントリースキーでなくても、こんなにもいいところがあるので利用してもらえたらうれしいです。それに、クロスカントリースキーをすれば、ご飯や晩酌がいつもよりおいしく感じますよ（長谷川さん）。」



童話の森スノーウェーブ
（黒姫童話館 & 童話の森ギャラリー）
信濃町黒姫高原3807
026-255-6720
【開設期間】12月中旬～3月31日
※積雪状況により変更いたします
9:30～16:00
（受付9:00～15:00）
<http://douwakan.com/snowwave>



親子で携わる、 クロスカントリースキーコース作り。

「童話の森スノーウェーブ」管理人
長谷川 久雄さん・横田 美久さん

